

大阪国税局長賞

大阪・関西万博から知る税金

神戸市立西落合中学校3年

櫻井 莉丹

税金の使い道には何があるかと聞かれて人が最初に思い浮かべることは何だろうか。やはり年金、医療費や、公共交通機関の整備と答える人が多いのではないだろうか。実際これらには税金の多くが使われている。だが、これらが税金から成り立っている事実は日常ではあまり実感できない。私も日常で税金を意識するのは物を買う時に払う消費税くらいで、税金があることで成立するものはいつも意識の外だった。

ところがこの夏、合計で三回万博に行った私は税金の恩恵を初めて直に感じた。きっかけは万博に行く前に見かけたとあるニュースだった。それは大阪・関西万博の開催に多額の税金が使われているというもので、国だけでも約千七百四十億円前後の税金が会場建設費・運営費・警備費などとして投入されているそうだった。大阪府や大阪市に関してはさらに多額の税収を万博に充てている。それを当時の私はすごい額が使われているな。そんなに期待されているのかとぼんやり思っただけだった。だが、実際に万博を訪れてみるとその体験は圧巻で、訪れた三回それが素晴らしい経験になった。学校の様々な分野の授業で習ったことを実際に見たり、聞いたりする機会が多くて、とても興味深かった。特に美術で勉強した「キリストの埋葬」を見たときは衝撃で、記憶が鮮明に残っている。また、全く知らない国・地域の文化に触れることがあって、国際交流や他の国の文化を知って共存していくことの大切さを感じた。そこで前に見た税金のニュースを思い出して、このような大規模な国際イベントを経験できる機会も、運営する基盤も税金があってこそだと感じた。さらに詳しく調べてみると、万博に使われる税金はこのように人々に貴重な経験を与えること、国際交流と異文化交流の促進剤になる他にも、様々な効果を与えると考えられていることが分かった。例としては、万博が開催された国・地域への経済の活性化効果が挙げられる。万博の事業により、新しい技術の実証や都市開発、地下鉄の延伸や新鉄道網の整備など、万博が終了した後にも残るもののが関西地域への経済活性化の鍵になる可能性があるとのことだった。

今回の万博を通じて、私は税金がただの支出なのではなく、未来の社会をつくる投資だと知った。そもそも税金は、国民の「健康で豊かな生活」を実現するためにあるのだ。確かに自分のお金の一部が自分で使えず、国や自治体に納める必要がある面を考えると個人としてはマイナスなイメージが浮かぶかもしれないが、社会として考えると個人ではできないことをする為の資金源となり全体ではプラスとなるだろう。私も大人になつたら、社会のためになる税金の使い方を考えて、税金のありがたみを感じながら納税をできるようになりたいと思う。